



Weekly Report

RI 会長テーマ Engage Rotary Change Lives

クラブ会長テーマ 奉仕を通じて 友情を

第2174回例会

日 時 : 平成26年1月29日**会 場** : 例会場**司 会** : SAA

小澤委員長

開会点鐘

村上会長

齊 唱 : ロータリーソング「日も風も星も」

村上会長

お客様の紹介

清水 周様 国立市教育委員会 社会教育体育担当・学芸員

会長報告

村上会長

●多摩中グループ第2回(通算78回)

親睦ゴルフ大会開催

日時 3月20日(木)

場所 東京バーディー ゴルフ同好会で取りまとめます

●第37回くにたちさくらフェスティバル実行委員会

日時 2月5日・25日、3月11日・26日

19時30分

場所 国立市役所会議室

出席 石塚社会奉仕委員長

●タイ サラブリ RC のパンジャポーンさんより年賀状がきました。今年度のグローバル補助金も申請中です、確定しましたらご報告いたします。

幹事報告

山崎幹事

●2月のロータリーレートは1ドル102円です。

●地区大会1日目の2/26に開催される「RI 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会」への登録推奨のお願いがきています。再度ご検討のうえ、お申込みください。

●創立45周年記念式典のご案内を配布いたしました。会員は全員登録といたします。ご家族の参加登録をお願いいたします。

ニコニコBOX

荘原親睦活動委員

●村上会長 本日は最終の公開卓話となりました。清水

周講師をお招きする事が出来て光栄です。よろしくお願い致します。

●山崎幹事 第3回目の公開卓話講師の国立市教育委員会の清水あまね様、楽しみにしています。

●小澤谷守会員 卓話講師、清水様にはご苦労さまです。清水さんは、当国立富士見幼稚園すみれ組さんのご父兄でもあります。本日の卓話楽しみにしておりました。よろしくお願ひいたします。

●遠藤常臣会員 結婚記念日の御祝、有難うございます。早いもので今年で35回目となりました。これからも付かず離れずやっていきたいと思ひます。

●喜連紘子会員 清水様、本日はお忙しい中、卓話にお越し頂き有難うございます。お話しを楽しみにしております。

●佐伯和美会員 清水学芸員様、本日はお運び戴きましてありがとうございます。出土の実物の4本の石棒を拝見した私は、あれが縄文時代の人が作製したものと、今でも信じられないのです。興味深く拝聴させていただきます。

●小澤崇文会員 懐も身体も寒いのでニコニコします。

●荘原会員 皆さん、こんにちは。本日50日ぶりの例会出席になります。年末より体調を崩し欠席をしていました。その間全ての行事は欠席また直前のキャンセルでご迷惑をかけましたことお詫びいたします。久しぶりに出席嬉しく思ひます。1日も早く日本酒・ウイスキーなど濃いめのお酒で乾杯したいです。今年の目標は体力増進!!本日の卓話楽しみにしております。よろしくお願ひします。ニコニコBOX 合計22,000円 累計807,000円

出席報告

秋山出席委員

1月29日 在籍47名中 出席42名

前々回(1月15日)の出席率 97.73%

閉会点鐘

村上会長

R.I. 第2750地区 多摩中グループ
東京国立ロータリークラブ

会 長 : 村上隆秀 幹 事 : 山崎義晴

例 会 日 : 毎週水曜日 例 会 場 : 谷保天満宮社務所2階 東京都国立市谷保5209 TEL042-576-5123

事 務 所 : 東京都国立市中1-9-36 KKビル4F TEL: 042-575-0770 FAX: 042-572-8666

E-mail : kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp

U R L : http://kunitachi-rc.com/

会報委員 : 関重寿・遠藤直孝・齊藤博人・富田 聡

緑川東遺跡と原始古代の人々の暮らし

講師紹介

喜連(紘)プログラム委員長

清水様は昭和49年3月小金井市にお生まれになり、国立市には10歳の時からお住まいになっています。平成8年3月創価大学文学部をご卒業され、平成8年5月から平成16年3月まで8年間くにたち郷土文化館にて学芸員(嘱託員)として勤務。平成16年5月から平成19年3月まで3年間、広告代理店にて営業として勤務。平成19年4月より現職に就かれています。現在、国立市教育委員会生涯学習課社会教育・体育担当係長でご活躍されています。

本日は平成24年夏に緑川で検出されました敷石遺構等についてのお話をさせていただきます。

■はじめに

国立は8Km²の小さな市ですが、様々な時代・時期の遺跡が遺されている地域です。

何故多くの遺跡が遺されているのか。それは、市域の南側を流れる多摩川の浸蝕によって作られた3つの河岸段丘(ハケ)があるからです。この3つの河岸段丘が国立の地形的な大きな特徴です。

河岸段丘は天然の濾過装置のようなもので、雨水が地面にしみ込み、湧水となって崖線下から染みだしてきます。河岸段丘があるので、国立は湧水が豊富なのです。水が綺麗だと植物も繁茂しますし、動物も集まります。水も食物も動物もあるということは、そこにスーパーマーケットがあるようなものです。

また、南向きに段丘面が開かれているので、日当たりも良好です。そんなことで、人はハケの上で集落を営むことになります。だから、段丘の縁辺部には遺跡が分布するのです。

国立は南部に2つもハケがあり、水が豊富だったことで、多くの遺跡が分布していることになります。



国立市教育委員会
清水 周 氏

■緑川東遺跡

緑川東遺跡は国立の西部、青柳大通り(みのわ通り)のケイヨーD2や西友の近くで、雑木林があった場所を平成6年に区画整理に伴って発掘調査が行われました。その後2回にわたって調査が行われています。

ここからは旧石器時代、縄文時代、奈良・平安時代の遺構、遺物が検出されました。遺跡の多くは段丘の縁辺部に広がると言いましたが、この遺跡は崖下すぐに広がっています。

段丘上からは住居が200軒以上検出され、縄文時代中期の拠点集落として有名な向郷遺跡(立川市)があり、緑川東遺跡とは矢川を挟んで段丘の上と下に広がっていますので同一の集落だったと考えられます。

■遺跡の範囲

話は本題から反れますが、遺跡の範囲はどのように決めるのかをお話します。

畑など広い土地を観察し、表面採集できる土器や石器といった遺物を観察し、例えばそれが縄文土器であれば、そこに縄文時代の集落があったと推測することができます。そして、その出土した地点を中心に、エリアを決めていきます。これを分布調査といって、このようにして遺跡の範囲を定めます。

もちろん、実際に掘ってみたら、そこから何も出てこないということもあるわけですが、反対に遺跡の範囲として掌握されていないところでも、そこから遺構や遺物が出てくるということもあります。地面の下のことなので、実際には掘ってみないとわかりません。では、その辺を全部掘ってしまえばいいのでは、と言われるかもしれませんが、そうもいきません。

遺跡調査というものは遺跡の全容を知ることでもできますが、全てを掘ってしまうので、ある種、破壊行為と同じなのです。

分布調査の結果と、今までの調査の結果から総合判断して遺跡の範囲をマーキングしていきます。試掘調査というのは対象範囲全面を掘るのではなく、建物を建てる範囲のおよそ8~15%程度にトレンチ(溝)を設定し掘削します。

第4次調査は昨年6月から7月にかけて、介護福祉施設増築工事に伴い実施。遺跡範囲に該当していなかったが、近隣であったため施主の理解もあって実施したところ、遺構を検出し本調査を実施した。

この調査では、全体に満遍なく4箇所のトレンチを予定していましたが、既存建物の解体が進んでいなかったため、当日急きょ、建物同士の空間に2本のトレンチを設定しました。1本目からは何も出てきませんでした。工事責任者はホッとした顔で帰っていきましたが、その直後、立て続けに縄文時代の敷石遺構6基が検出されました。そうした状況でしたので、本調査を実施することとなりました。敷石遺構を検出した南側は攪乱も多く、調査をすべきかどうか迷いましたが、攪乱が多いならば、掘削するのにさほど時間もかからないだろうと考え、調査範囲に加えました。

ところが、その南側から大型石棒が4本も出てきました。遺跡調査というものは偶然の産物というところも多く、試掘調査では対象範囲の10%程度しか掘らないので、そこから何も発見されないこともありますし、反対に、今回のように掘ったらドンピシャということもあります。

■敷石遺構を検出

石が敷かれている遺構を敷石遺構といいます。河原石が一面に敷いてある中に、石棒が4本検出されました。友人にこの写真を見せたらドラムスティックのようだと言っていました。これは石棒とって、縄文時代の「まつりごと」に使うものです。

どのような形で「まつりごと」に使っていたかは詳らかではありません。ただし、通常石棒は、焼かれています。叩いて粉々に割れたりした状態で出土します。ごく稀に無傷で出てくる場合がありますが、本当に稀なことです。ところが、緑川東遺跡からは4本がほぼ無傷で出土したのです。これは全国では類例のない出土状況です。

こうしたことから、毎年6月の中旬から、江戸東京博物館を皮切りに全国巡回する「発掘された日本列島」という文化庁主催の展示がありますが、そこに東京都内から唯一緑川東遺跡を選んでいただきました。

この敷石遺構は東西約3.2m、南北3.1mでほぼ円形です。最初、石を検出したので掘り進めると、敷石住居かと思える河原石が沢山出土しました。敷石住居は通常深さ20cmぐらいなのに、ずいぶん深いので「おかしいな」と思っていたら、石棒4本が出てきました。

発掘調査では、ベルトを残して土層堆積を記録します。出土した土器から、その時期の遺構だと簡単には判断できません。土層を細かく観察して記録を取り、「確かに自然な堆積である」とか「重機によって壊され天地が逆になっている」という判断をします。通常は上の方から新しい時期の土器が出てきて、その下からはそれより古い時期の土器が出てきますので、より



緑川東遺跡第4次調査検出の敷石遺構



緑川東遺跡第4次調査検出の石棒

敷石遺構の規模 東西径3.2m、南北径3.1mのほぼ円形
石棒の大きさ 重さは22kg～30.8kg
全長は1.04m～1.12m、幅12.95cm～13.9cm

下の地層を見てその遺構の時期を判断します。

石棒のすぐ上から土器が潰れた状態で出土しました。その土器は縄文時代中期末から後期初頭（4千年前）の時期、考古学の専門分野では加曾利E式期のものでした。この石棒もこのころのものと考えられます。

■無傷の石棒が出土

緑川東遺跡から出土した4本の石棒は、それぞれ頭の形が違います。笠が1段のものと、2段のものがあります。石棒の原石は山などから切り出したものではなく、石が自然に裂けて崩落していたものを加工したと考えられます。

石を加工するには、当時はグラインダーのようなものはありませんので、ある程度まで形を整えてから、研石のようなものでひたすら磨って棒状にします。石棒の全長は、一番小さなもので104cm、一番長いのが112cm。重さは一重いもので30.8kg、一重軽いもので22kgです。このような石材が採れる場所で加工して運んできたのか、または原石を運んできて、ここで加工したのかは分かりませんが、この石棒は誰もが作れるものではありません。何らかの大きな目的があって、石棒を作る専門の職人が作っていたのではないかと想像できます。

縄文土器も同様に、誰でもが作っていたわけではなく、土器作りの専門集団がいたと考えられています。石棒も同様のはずです。では、緑川東遺跡が石棒を作る集落だったのか。だとすると、何故こんなにも頭の部分の形が違う石棒があるのだろうと疑問がわきます。それを考えると、緑川東遺跡は石棒を作る集団ではなく、どこかで作られたものが集められて「まつりごと」を行った場所ではないかと考えられるわけです。

先ほど申し上げたように、大変な労力と時間を要する石棒を、それも4本も集められるこの場所は、とても大きな集落であったのか。近くにある大規模集落の向郷遺跡か、または近隣の集落が石棒を持ち寄って「まつりごと」を行ったのかは、類例がないので分かりませんが、今いろいろな研究者が集まって、当時の「まつりごと」に関して考察しているところです。

ここで発見された石棒は無傷だったことで、「まつりごと」に使用する前のもので、この敷石遺構は石棒の保管場所ではないかという意見もあります。

また、4本を集めて寝かせてあること自体が「まつりごと」の形だったのかもしれない。石棒の「まつりごと」に関してはまだ分からないことが多いのが実情です。

■敷石遺構と石棒

石棒が出土した個所ですが、土を取り除いていくと、多くの石が出土しました。これらは遺構の縁辺に積まれていた石のようで、それらを取り除いて、この

遺構が作られた当初の敷石を検出しました。敷石の縁辺部には石が3段から4段に積んでありました。通常の敷石住居は縁辺にこのように石を積みません。しかも深さが80cmぐらいあるのです。

ここで重要なことは、石棒の不思議さだけではありません。これまで、住居の廃棄儀礼として、石棒を焼いて破砕して廃棄することが、その儀礼行為であると考えられてきました。この遺構に関しても、住居廃棄後に、石棒を「おまつり」する空間に転じられたのではという研究者も多くいます。が、ここは深さが深いき、住居として使われていたことが考えにくい要素が多くあります。

住居の場合は当然柱穴があるのですが、縁辺部の積石との関係で、これも非常に難しい。もしかすると、ここは屋根のある遺構ではなく、野ざらしの空間として石を敷いていたのかも、という意見もあります。

また、住居の場合中央に炉が作られます。火を焚くと土が真っ赤に燃えます。これを焼土といいます。今回の遺構からはまったく焼土が出ませんでした。焼土もないため、ここが住居だと考えることが難しいのです。そのため、この遺構は、最初から石棒を使った「まつりごと」をするための空間だったのではという意見があります。

遺構中央部には、炉がない代わりに、何だか意味ありげな礫が置いてありました。これも何の意味があるのか。先ほども申し上げたように、遺構の縁辺からは柱穴のようなものも検出されました。これを柱穴として使用したのか、それとも、何か別の意図があったのか、はっきりしません。

■おわりに

この国立という小さい場所の中で、非常に地形的に恵まれた特徴のある地形ですから、素晴らしいものが出土して発見されましたので、子供たちにもしっかりと伝えて、国立地域に誇りを持って生活をしていっていかれる方を一人でも多く増やしたいと考えています。



中津系土器出土状況

この土器は中津系と呼んでいるグループの土器で、中部地域、三重あたりに多い文様構成。赤く見えるのは朱。この赤彩がベンガラ（酸化鉄起源）か水銀朱（水銀起源）かについて蛍光X線分析にかけたところ、水銀朱であった。三重あたりで作成された「中津式」がダイレクトにもたらされた蓋然性が高い。現在、胎土分析をしている。水銀朱の付着した土器としては、東国では最も古い事例になる可能性が高い。緑川東遺跡の重要性はますます高まっている。



緑川東遺跡第4次調査 出土獣面把手

獣体把手が3点ほど出土